

絵画私論4「挿絵考」

～マザー・グースのイラスト制作～

An Introduction to the Mutual Relationship between Illustrations and Language through Mother Goose Poetry

陣内 敦

I はじめに

現在の筆者の主たる絵画の方法は抽象的表現に拠っている。しかし、その抽象表現は特定の法則によって構成されるものではなく、具体形が既存の殻を脱ぎ捨てたような有機的な様相をとるものである。筆者の絵の鑑賞者はこの抽象的な形態の裏側に具体的な事物を想像していることが多い。この想像は、幼児のような空想的発想である場合と、文学的な連想が用いられている場合がある。なぜ文学性が抽象絵画の連想に介在してくるかということが疑問となってくる。筆者はここで文学の中の象徴性や抽象性が抽象的絵画表現と結びついていくのではないかという仮説を立ててみたい。絵画は視覚伝達をおこなう表現媒体であるが、古くよりこの言語との関係を持ちながら、その表現の特色を作ってきたと言える。筆者は、このような絵画と言語の関係について関心を持ち始めている。上の仮説の先に、自らの表現の広がりを見たいと考えているのである。

2012年9月に、筆者が抽象的表現作品の展覧会を開催した際に、英文学研究者の知人がその会場を訪ねてくれた。氏は、題名のつけ方とそのタイミングに関心を寄せていた。言語の絵画における役割についての会話となり、さらに、上で述べたこれらの関係についての筆者の関心を伝えた。暫く後に、氏よりマザー・グースの専門教科書に掲載する挿絵の協力依頼を受けることになった。

挿絵制作を始める経緯については、以上である。ここで、一旦この挿絵という絵画ジャンルについて整理しておきたい。挿絵は、西洋絵画の歴史において聖書の解説を助けるものとして誕生したと言われている。イラストレーション (illustration) は、図や絵による解説を意味しており、挿絵は言語の補助的役割として用いられている。前述した絵画と題名の主従関係とは相反するものであるが、絵画の位置づけを担ってきた重要な役割であり関係であった。

今回のイラスト制作の試みが、筆者の絵画制作全体に対してどのような影響や展開をもたらしていくのか予測できないものであったが、なにかしらの収穫があるものという確信があった。絵画と言語の関係、そこには表現媒体の分岐ではなく繋がって存在するという期待である。

II 作品の受注・相談と制作方法

1 作品の受注と相談

(1) 制作発注者

①マザー・グースの専門教科書の編注者グループ

宮原牧子 中島久代 伊藤真紀 三木菜緒美 木田裕美子

6名の編注者は、大学において英語科目および英文学科目を担当する教員である。また「日

本バラッド協会」(注1)に所属し、伝承バラッドおよびバラッド詩(注2)をも研究対象とする英文学研究者である。

②マザー・グースの専門教科書の発行者・発行所

藤平英一 英光社(東京都文京区本駒込)主に英文学関係の出版物を専門としている。

(2)挿絵の受注と相談

①編集前のサンプル作画

本書の編注者である中島久代氏と宮原牧子氏が、英光社より2004年に刊行した、同じくマザー・グースの専門教科書 *Songs and Rhymes from Mother Goose* (『マザー・グースの歌』、宮原・Taylor・中島編集、31篇収録)に使われた挿絵(著作権期限切れのものが発行者によって収集された)を、著者の感覚でアレンジして作画、この10数点をサンプルとして編注者グループに提示した。編注作業打合せにおいて、このままの画風での掲載が賛同され、これらのサンプル作品も掲載候補作品となった。

②編集中の受注と相談

編注者グループと発行者より、編注作業段階および校正段階で、挿絵が加わると解説が一層明確になるとの理由で、追加で挿絵が必要となった旨の連絡があり、追加分のマザー・グース作品の概要が解説文と共に紹介され、依頼された。相談方法の多くは、電子メール、手紙、会議によった。また、一旦作画した挿絵が今回採用されたテキストの内容と相違しているなどの理由から、描き直しの必要も出てきた。以下、初回の挿絵と描き直しの理由を紹介する。



とびら (Old Mother Goose)
とんがり帽子を被っているマザー・グース像が一般に定着している



6] Mary Had a Little Lamb
詩の中に「雪のように白い」という表現があるので顔も白いほうが分かりよい



21] Little Bo-peep Has Lost Her Sheep
少女ボー・ピープは泣き虫のイメージが一般に定着している



24 Little Miss Muffet
主人公が小さな少女と想定される時には、小さな蜘蛛がその少女を驚かす場面が定着している



25 Wee Willie Winkie Runs through the Town
眠りの精ウィリー・ウィンキーは、老人の姿で、おとなしく就寝しない子の家のドアをたたいて回る

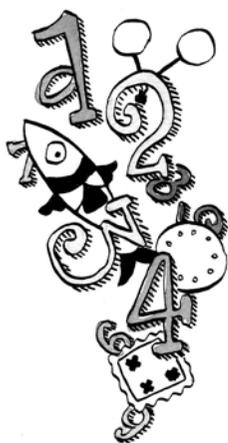
さらに、終盤の校正段階において頁のスペースをうめる目的で、挿絵を追加した。

2 挿絵の描画方法

- (1) 描画材料：黒インク カラーインク つけペン 筆 水彩紙（アルシュ紙）
- (2) 描画方法：黒インクとペンでドローイングした上から、部分的に筆でカラーインクを薄く着彩

II 作品紹介

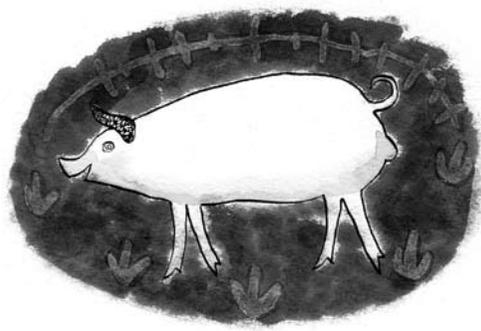
- 1 挿絵 本書に掲載された挿絵を、掲載番号とタイトルとともに紹介する。



まえがき
(Buckle My Shoe)



まえがき
(Here We Go Round the Mulberry Bush)



もくじ
(This Little Pig Went to a Market)



とびら (Old Mother Goose)



1 (Goosey Goosey Gander)



3 A Cat Came Fiddling Out of a Barn



5 Old Mother Hubbard



6 Mary Had a Little Lamb



9 A Farmer Went Trotting upon His Grey Mare



10 A Fox Jumped Up One Winter's Night



11 A Frog He Would A-woeing Go



12 Ladybird, Ladybird



17 Mr.East Gave a Feast



18 Twinkle, Twinkle,
Little Star



21 Little Bo-peep Has Lost Her Sheep



23 There Was a Little
Girl, and She Had a
Little Curl



24 Little Miss Muffet



25 Wee Willie Winkie Runs through the Town



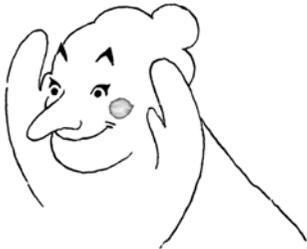
26 Jack and Jill Went Up the Hill



28 Peter, Peter, Pumpkin Eater



29 There Was a Mad Man and He Had a Mad Wife



30 Old Woman, Old Woman, Shall We Go A-shearing?



31 There Was an Old Woman Who Lived in a Shoe



34 There Was an Old Woman, and What Do You Think?



36 There Was a Crooked Man, and He Walked a Crooked Mile



41 London Bridge Is Broken Down



42 Georgie Porgie, Pudding and Pie



46 Old King Cole



49 Ten Little Injuns Standin' in a Line



50 Sing a Song of Sixpence



52 Betty Botter Bought Some Butter



53 Humpty Dumpty Sat on a Wall



54 A Was an Archer, Who Shot at a Frog



55 Pat-a-cake, Pat-a-cake, Baker's Man



56 This Is the House That Jack Built



56 This Is the House That Jack Built



57 I Saw a Fishpond All on Fire



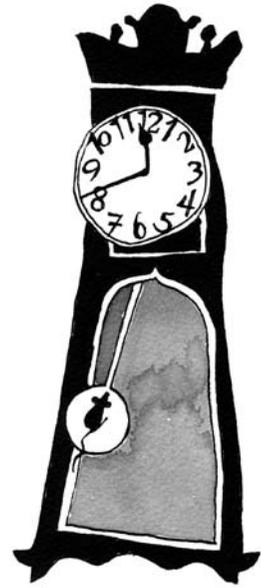
59 There Was a of Double Deed



62 Oh, What Have You Got for Dinner, Mrs. Bond?



63 Ring-a-ring o' Roses



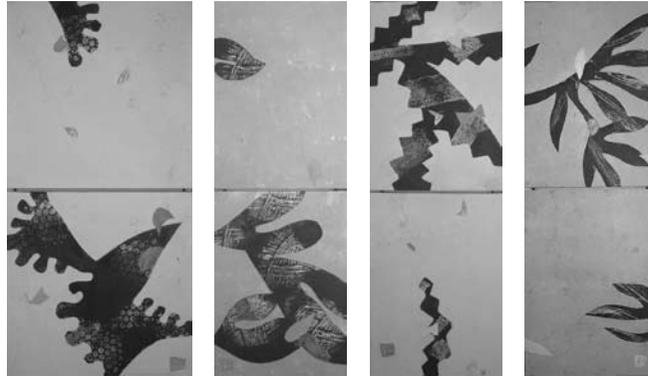
64 Hickory, Dickory, Dock

2 表紙絵と裏表紙絵

本書の表紙絵と裏表紙絵には、カラー作品を用いることになった。昨年秋の筆者が開催した作品展覧会はこの編注作業中の期間であったことから顔合わせを兼ねて編注者の4名が来場し、筆者は次の表紙絵と裏表紙絵のために描いた次の抽象絵画作品を紹介した。筆者はマザー・グースのイメージに母性と幻想性感じて「月夜のできごと」シリーズを制作したことを伝え、特に「月夜のできごと04」を表紙絵と裏表紙絵に推薦した。以後、編注者間でこれについての協議があり、掲載が賛同された。

絵画私論4「挿絵考」～マザー・グースのイラスト制作～

この作品の描画材料は、パラフィン・オイルカラー・インク・墨・麻紙である。描画方法については筆者が独自に開発した過程もあり、今後の絵画私論において詳しく記載したい。



「月夜のできごと」シリーズ



月夜のできごと 04

III The Illustrated World of Mother Goose Poetry 『マザー・グースの英詩の世界』の発行

本書には上記のタイトルが付けられ2014年4月10日に初版が発行された。タイトルにある‘Illustrate’には、図解も含めた「説明する」の意味があるが、解説文だけでは理解しにくい内容を的確に伝える挿絵の役割と、筆者の挿絵の芸術性が編注者ならびに発行者によって評価されてのタイトル付けであったと聞いた。この場を借りて感謝申し上げたい。

表紙



裏表紙



IV おわりに

筆者は、絵画と言語の関係についてこれらの挿絵制作を通して考え始めた。この制作の中で感じられたことは、マザー・グースの詩の中に存在する象徴性や抽象性に対して創造性がかきたてられていったということである。それは、日本の童謡と同じように、暗示的な印象を受けるものであって、読者に対して無限の想像力を与えている。この謎めいた世界に対して具体的な推理ではなく想像力の広がりをもそのまま抽象的に描いたのが、前章で紹介した表紙絵と裏表紙絵であった。つまり、この作品のイメージはマザー・グースのたくさんの詩から受けたものであり、その全体的なイメージによるものであった。今後の筆者の制作プランの中に、マザーグースを生み出したバラッドの挿絵制作がある。この中で、さらに絵画と言語の繋がりと広がりを見つけながら、制作上の新たな展開を期するものである。

(注1) 日本バラッド協会 (The Ballad Society of Japan) は、イギリスなどで伝承されてきたバラッドに対して、歌としての興味、民族の文化遺産としての興味、詩としての興味など、多方面に渡る関心を持つ人々が集う場として、2007年9月に発足。(日本バラッド協会 HP <http://j-ballad.com/> より)

(注2) バラッドは、もともと文字を持たない民衆によってヨーロッパ各地でうたい継がれてきた物語歌である。内容は多種多様で、身分違いゆえに結ばれない恋の悲劇や、嫉妬と呪い、近親相姦、ユーモアあふれる日常生活、妖精物語など、いずれも民衆の豊かな想像力が生み出したものである。

親から子へとうたい継がれてきた「伝承バラッド」(traditional ballad) に対して、ブロード・シートと呼ばれる片面刷りの大判紙に歌詞と楽譜を印刷して、路上でうたい、売る「ブロードサイド・バラッド」(broadside ballad) と呼ばれるまったく新しいタイプのバラッドが16世紀初めに生まれた。前者が長い年月をかけて独特の様式化された物語形式を生み出したのに対して、後者は、政治的・社会的事件を文字にして即刻人々に伝えるというジャーナリスティックで教訓性に満ちたものであり、テキストとして固定された点が大きな違いである。また、18世紀以降、廃れゆく伝承バラッドが蒐集・出版され、それとともに民族の遺産としてのバラッドの存在に多くの詩人たちが注目するようになり、「バラッド詩」(literary ballad) と呼ばれる独特の模倣詩が生まれた。[『イギリス詩を学ぶ人のために』(東中・小泉編、世界思想社、2000年)、第3節「バラッドについて」(山中光義執筆)より]